

顔戸南木ノ下遺跡 III

— GOUDO MINAMIKINOSHITA SITE —

2001・12

長野県飯山市教育委員会

例 言

- 1 本書は、長野県飯山建設事務所が実施した一般県道飯山新井線道路改良工事（舗装工）に伴う顔戸南木ノ下遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 顔戸南木ノ下遺跡は、飯山市大字寿字南木ノ下1363-1番地及びその周辺に位置する。
- 3 調査は、長野県飯山建設事務所の委託を受けた飯山市教育委員会が実施した。
- 4 発掘調査は平成13年7月9日より同年7月16日まで実施し、残務整理を8月1日まで行った。
- 5 調査体制は以下の通りである。

調査受託者	小山 邦武	飯山市長
調査担当者	望月静雄	(飯山市教育委員会事務局)
調査員	田村混城	
作業参加者	万場義秋・高橋喜久治・高橋武・岩井伸夫・阿部智子・宮本鈴子	
整理参加者	小林正子・藤沢和枝	
事務局	清水長雄	(飯山市教育長)
	市川和夫	(飯山市教育次長)
	米持五郎	(飯山市教育委員会生涯学習課長)
	丸山 一男	(飯山市教育委員会生涯学習課長補佐兼社会教育係長)
	市村真理	(飯山市教育委員会生涯学習課社会教育係主事)
	望月静雄	(飯山市教育委員会生涯学習課社会教育係主査)
	藤沢和枝	(飯山市埋蔵文化財センター職員)
調査委託者	児玉 文武	長野県飯山建設事務所長
監督員	唐澤 伸司	飯山建設事務所技師
副監督員	村山 幸男	飯山建設事務所主査
- 6 本書の執筆・編集は飯山市教育委員会が行った。
- 7 出土遺物・図版は飯山市埋蔵文化財センターで保管している。

目 次

I 概要

1 調査の経過	1
2 南木ノ下遺跡の位置と顔戸周辺の遺跡	2
1) 遺跡の位置	2
2) 顔戸周辺の遺跡	2

II 調査

1 従前の調査	5
2 遺構	5
1) 1号竪穴住居址	5
2) 2号竪穴住居址	10
3 遺物	10
1) 1号竪穴住居址出土遺物	10
2) 2号竪穴住居址出土遺物	10
3) その他の遺物	10

IV まとめ

写真図版

写真1 調査風景	15
写真2 1号竪穴住居址	15
写真3 2号竪穴住居址内ビット上部土器出土状態	17
写真4 2号竪穴住居址	17

I 概要

1 調査の経過

平成13年4月25日、長野県飯山建設事務所より県道改良工事にともない所在する南木ノ下遺跡の発掘調査及びその積算依頼があった。それまで事前協議はなかったが、過去平成9年及び平成11年に周辺の発掘調査を実施しており、概ね遺跡地内に該当すると判断されたため、急遽日程等を調整するとともに積算を行った。

5月7日、飯山建設事務所長より調査費の見積り依頼がある。保護対象面積130㎡、発掘調査面積40㎡以上で、514,000円の積算となり、回答する。

5月15日、飯山建設事務所長より「道路改良に係る埋蔵文化財発掘調査の委託について」の協議書の提出があり、同口付で契約書を締結する。

6月4日、飯山建設事務所長より法に基づく「土木工事等のための埋蔵文化財発掘の通知書」が提出され、飯山市教育委員会が意見書を付して6月4日付で県教育委員会宛て送付する。

6月15日、県教育委員会より「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」の通知がある。

7月9日、調査中の飯山城跡より器材を搬入。発掘調査を開始する。調査区内の草刈り及び花の移植、境界等を確認する。対象区は、石積みの二段になっているため便宜的に上方（北）をⅠ区、下方（南）をⅡ区とした。Ⅰ区は人力により表土除去、Ⅱ区はバックホーにより表土除去を行う。Ⅰ区は耕作上約20cmで、その下層は礫層であった。

7月10日、Ⅱ区で比較的縄文式土器が多く出土する。近代以降の建物に付随すると思われる礫の構築物を確認。これについては時間が限られていることから調査しないこととした。

7月11日、引き続きⅡ区の調査を続行。

7月12日、Ⅱ区で遺構と思われる落ち込みを確認。調査範囲が限られており、明確に判断はできないが住居址の可能性が高いことから住居址番号SB1を付した。

7月13日 Ⅱ区のSB1住居址内を引き続き調査。ピットも確認する。Ⅰ区は、人力で表土除去の後礫層となったため重機で地下の確認を行ったところ包含層を確認。縄文土器等が若干出土。

7月16日、Ⅰ区で竪穴住居址を確認（SB2とする）。ピット上部より堀ノ内式期の口縁部土器を発見する。Ⅱ区のSB1住居址の清掃後写真撮影、平面図作成。引き続きⅠ区の平面図作成を行う。器材等を飯山城跡へ搬出し、すべての作業を終了する。

8月1日まで残務整理を実施。

8月6日、飯山警察署長あて「埋蔵物発見届」を提出する。県教育長宛て「埋蔵文化財保管証」、発掘調査終了報告書」を提出する。

～平成13年12月21日 整理作業所において図面・遺物整理等を経て報告書を刊行する。

2 南木ノ下遺跡の位置と顔戸周辺の遺跡

1) 遺跡の位置

顔戸南木ノ下遺跡は、飯山市大字寿（顔戸）字南木ノ下に所在する。

飯山盆地西縁を区画する標高1000m内外の関田山脈は、斑尾山（1381m）を最高峰とし、黒岩山（938m）、鍋倉山（1288.8m）などの低山地が続いており、越後との峠道も数多く存在している。

遺跡の所在する飯山市外椽顔戸地区は、これらのうち黒岩山の山麓にあり、平丸峠の遺筋が存在している。地形・地質的には扇状地の扇尖部に立地している。扇頂部には湧水が豊富であり、出口清水・腹葉清水などと呼ばれている湧出地がある。

遺跡の範囲は、周囲に民家が立ち並び明確ではない。現在最も明確に把握できる場所は、蓮華寺境内前面の畑地であるが、地形改変も行われており遺跡の大半はすでに失われている可能性もある。

なお、蓮華寺住職の田村氏の話によれば、この畑地において用水の暗渠工事中、土器や打製石斧、石棒などが出土したといい、そのうちの一点のほぼ完全な形の土器は田村氏が保管している。この土器は縄文時代後期の瀬ノ内式土器の浅鉢であり、表面・内部とも黒色である。

2) 顔戸周辺の遺跡

飯山市外椽地区内の顔戸区には、南木ノ下遺跡を含めこれまで7箇所の遺跡と館跡・城跡が各1箇所知られている。ただし、それぞれの遺跡とも範囲が明確ではなく、工事に際して発見されたため遺跡として登録されてきたものである。この要因としては、周辺が扇状地であったため、土砂の二次堆積により遺跡が発見されにくいことや、集落内のために明確に特定できないことなどがあげられる。これまで知られている遺跡としては、顔戸道下・顔戸第5・顔戸大天狗・顔戸出口・北顔戸・顔戸北木ノ下・釜淵の7遺跡である。道下遺跡は、昭和27年に神田五六氏によって調査され、住居址1軒と縄文中期後葉の土器深鉢、猪・鹿の骨片等が出土している。第5遺跡は、顔戸区において5番目の遺跡地として名づけられたもので、縄文晩期土器が発見されているという。大天狗遺跡では、磨製石鎌・磨製石斧・勾玉が発見されている。出口遺跡では石鎌・磨製石鎌・白玉が発見されている。北顔戸遺跡は、昭和62年に発掘調査された遺跡で、湿地より弥生時代・古墳時代・平安時代の各土器片が出土している。釜淵遺跡も昭和62年に調査されている。南木ノ下遺跡と同時期の縄文時代後期、弥生時代の遺物も発見されたが、中心は中世村落の一部で、永仁4年銘の呪符木簡をはじめ漆椀など多くの木製品や陶磁器が発見された。

これらのうち、ほぼ範囲が明確なのは釜淵遺跡のみで、他はほとんど採集によるためその範囲も内容も不明確である。したがって、道下遺跡や本南木ノ下遺跡、第5遺跡、及び釜淵遺跡などは範囲が一部重なり同一遺跡として捉えることが可能なのかもしれない。このことは今後の課題としても、保護行政側の責任として今後とも範囲の明確化を急ぎたい。



図1 戸戸南木ノ下遺跡の位置

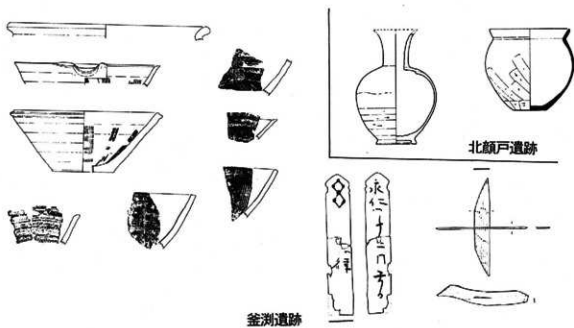
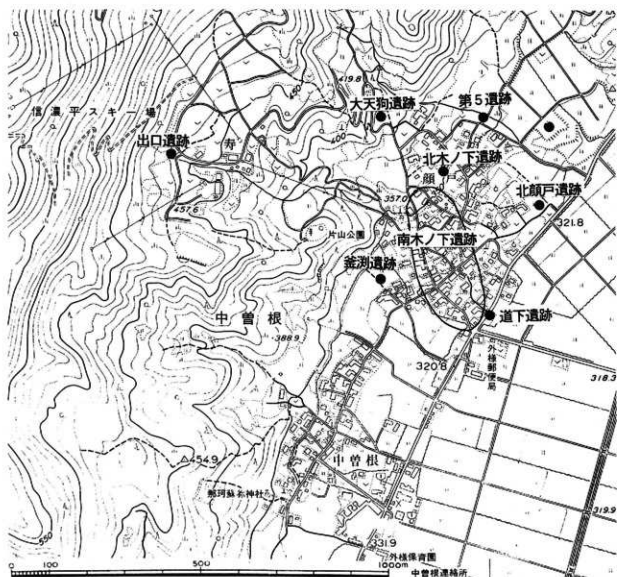


図2 南木ノ下遺跡の範囲 (1:10,000) 及び周辺遺跡出土遺物 (縮尺不同)

II 調査

1 従前の調査

南木ノ下遺跡の発掘調査は、平成9年10月に行われたのが最初である。それ以前では、I-2で触れたように工事に際して発見された程度のものであるが、この遺跡が公にされたのは1896年人類学雑誌12-128においてすでに遺跡名が記されているので、100年以上前より知られている遺跡でもある。以降多くの文献に記載されてきたが、それによれば、「縄文晩期前半土器・打製石斧・石皿・石鎌・石刀・弥生式土器(後期箱清水式)・磨製石鎌」等が発見されているとされている。それらの採集物は今日にほとんど残されておらず、わずかに土器1個体が蓮華寺に保管されているに過ぎない。したがって本遺跡の詳細なことについては殆ど不明であるといわざるを得ない。

平成9年10月の調査は、今回と同様に長野県飯山建設事務所による道路改良工事に伴って実施されたものである。約200mを調査し、竪穴住居址1軒・同加曾利B式土器・土偶・叩き石・凹石・磨石が出土している。一部のみを検出であったが竪穴住居址が確認されたことは、この周辺が縄文時代後期のひとつの中心地であった可能性が高い。

また、平成11年10月には同様の県道改良工事に伴い発掘調査が行われた。対象地は蓮華寺の東側にあたり、把握している南木ノ下遺跡のほぼ北限と考えられる場所であった。石器片がわずかに出土したが、明瞭な遺構や遺物は発見されなかった。

なお、本遺跡の範囲についても詳細は不明であるが、周辺において住宅の改築等に伴う工事において遺物が発見されたことなどの情報や地形から概ね図2のような範囲にならうかと思われる。

2 遺構

今回の調査により発見された遺構は、竪穴住居址2軒及び所属時期不明のピットが若干発見された。

いずれも出土遺物から縄文時代後期に属するものと思われる。以下に2軒の竪穴住居址について説明を加える。

1) 1号竪穴住居址 (SB1)

II区において発見される。近代以降による遺構の破壊が行われており明確ではない。北側において壁は確認されたが、全体的に規模は不明である。壁は約15cmを計る。ピットは6本確認できる。北側の壁際に120cm×60cmのほぼ長方形の土坑が確認されている。深さは18cmをはかる。

なお、擾乱部東側に延びる溝状の遺構は、同じく近代の水路上のものと判断される。

住居址内覆土より堀ノ内式土器様式から加曾利B様式の土器片が出土している。



図3 南木ノ下遺跡既出遺物(上段1次・下段2次)(1:3)

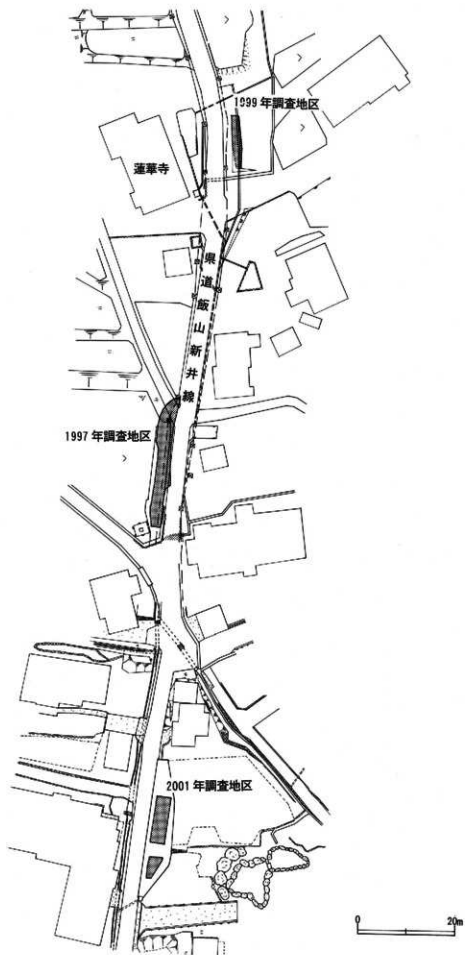


図4 調査区 (1:800)

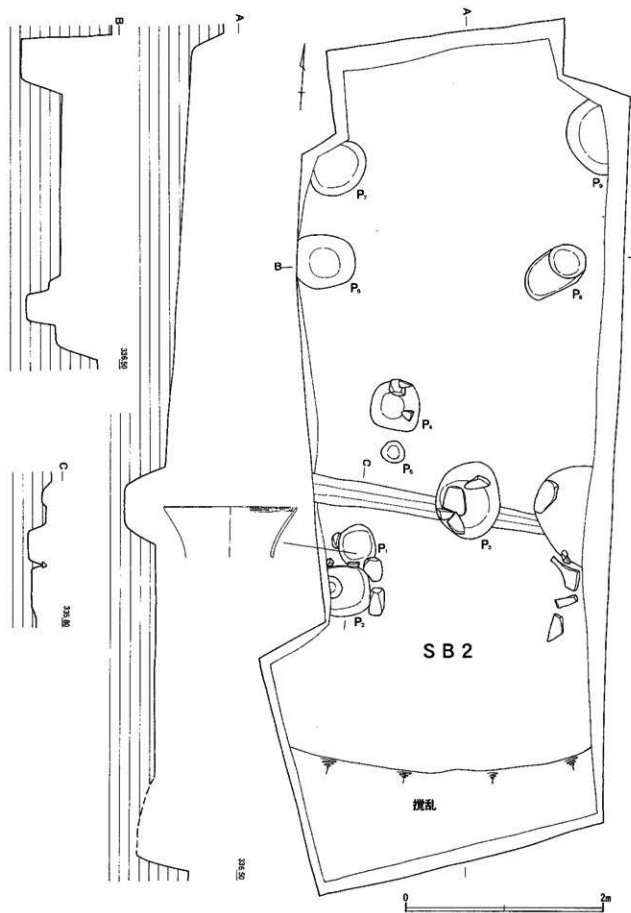


図5 調査区 I 区 (1:40)

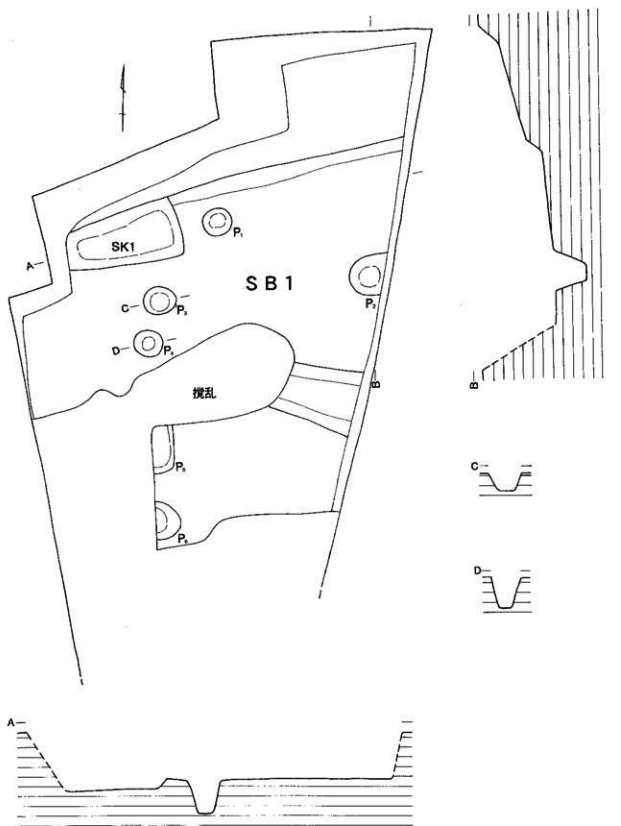


图6 調査区 II区 (1:40)

2) 2号竪穴住居址 (SB2)

I区において、二次堆積物の礫層下より検出された。溝状の遺構の南側部分が住居址になるものと考えられる。床面は小石等含むがほぼ平坦で堅緻である。さらに南側は石積みにより破壊されている。住居址内P1上部より縄文後期土器口縁部が発見されている。

P4～P9は住居址外ピットであるが、遺物の出土はなく所属時期については不明である。

3 遺物

出土した遺物には、縄文式土器、古墳時代土師器がある。石器等は発見されなかった。

土器は、遺物整理用コンテナ箱で4箱ほどの量が出土したが無紋の粗製土器や摩滅した土器片が多く拓本により示せたのは僅かである。以下に遺物別に説明を加える。

1) 1号竪穴住居址出土遺物 (図7)

すべて土器である。1は小さく内接し、口縁部に1本の隆線がめぐり刻み目が施される。2・3は矢羽状の文様が付される。6～9は外面が無紋あるいは沈線が1ないし3本めぐり、内面にも沈線の施されるものである。14～28は胴部破片である。25・28は刺突文が施されている。これらは後期前葉廻ノ内式土器様式及びそれに並行する三十稲葉土器様式のものである。

29～34は縄文後期中葉、加曾利B様式の土器である。

35～41は網代底の底部を一括した。35のみ2本越え、1本潜り、1本送り、他はすべて1本越え、1本潜り、1本送りである。

2) 2号竪穴住居址出土土器 (図8)

すべて土器で、10点のみであるが、10の羽状沈線は加曾利B式様式と思われるが、他は堀ノ内式様式と考えられる。1はP1上部より出土したもので、外面は無文で、内面は二条の沈線と口唇部に刻み及び円形の刺突が2個1対で付される。

3) その他の出土遺物 (図9)

II区より出土したもので、古墳時代の甕底部と蓋である。

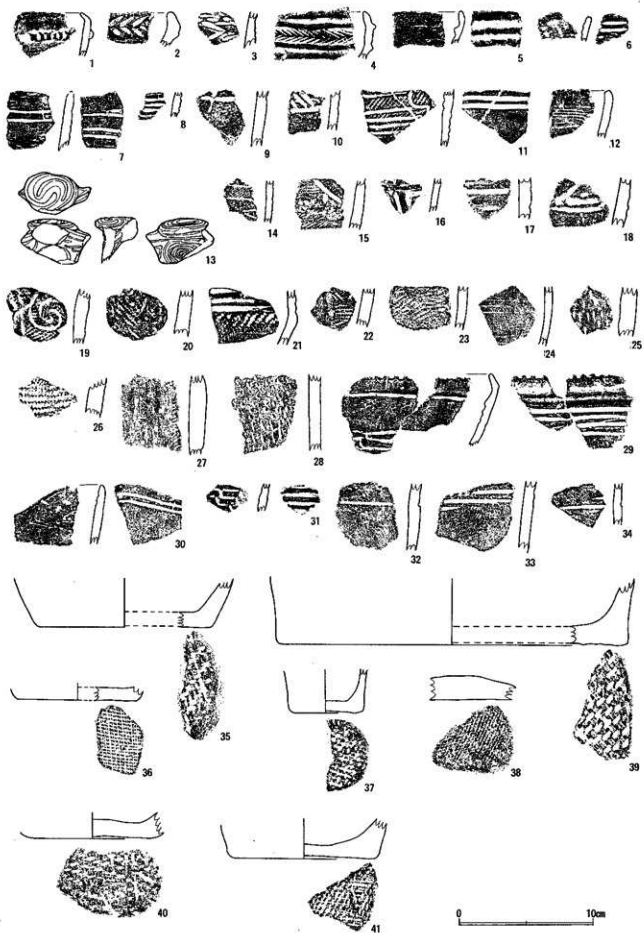


图7 1号竖穴住居址出土遗物 (1:3)

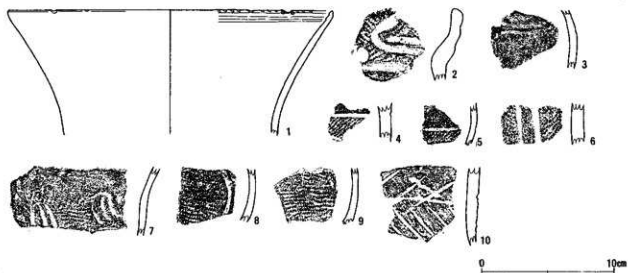


図8 2号竪穴住居址出土遺物 (1:3)



図9 その他の出土遺物

Ⅲ まとめ

顔戸南木ノ下遺跡は、今回で三日目の調査となった。いずれも県道改良に伴う調査で、その面積も極く僅かであり、遺跡の全体像については把握できるわけではないが、範囲や遺跡の時期についておぼろげながら判明しつつある。

まず時期については、縄文時代後期前葉～中葉を中心とする遺跡であることがわかってきた。今回の調査では堀ノ内後半様式から加曾利B様式期の土器が中心であったが、これは1997年調査によって得られた資料と基本的に同時期のものである。今回明瞭ではなかったが2軒の当該期の住居址が発見された。1997年調査区でも1軒確認されているので、この両者を結んだ範囲が遺跡中心地である可能性がある。

さて、遺跡の範囲については、Iの顔戸周辺の遺跡で触れてきたが再度検討しておく。本南木ノ下遺跡の西側には釜淵遺跡が存在する。中世村落の一部を発掘したが、縄文後期称名寺・三十稲葉・堀ノ内各様式の土器も多く発見されている。また、東南の道下遺跡においては竪穴住居址が発掘され、縄文中期後半の土器が出土したとされている。これらのことから、釜淵・道下遺跡とも遺跡の範囲が重複するのではないかと推測される。ほぼ顔戸集落全体が遺跡地として捉えられるのではあるまいか。このことについて、今後既出資料を整理し時期的な遺跡範囲の検討などを含めて検討していきたいと考えている。

最後に、今回の調査を実施するにあたり依頼者の長野県飯山建設事務所をはじめ、作業参加者各位、休憩場所の提供をいただいた蓮華寺や調査区隣接地の足立喜幸氏には物心両面からご支援いただいた。記してお礼申し上げます。



写真1 調査風景



写真2 1号竪穴住居址



写真3 2号住居址内ピット上部土器出土状態



写真4 2号竪穴住居址（手前部分）

報告書抄録

ふりがな	ごうどみなみきのしたいせき さん							
書名	顔戸南木ノ下遺跡 Ⅲ							
副書名	第64集							
巻次	Ⅲ							
シリーズ名	飯山市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第64集							
編著者名	望月静雄							
編集機関	飯山市教育委員会							
所在地	〒389-2292 長野県飯山市飯山1110-1 電話0269(62)3111 内線363							
発行年月日	平成13年12月21日							
ふりがな 所有遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
顔戸南木 ノ下	長野県飯山市 大字寿1363-1	20213	96	36° 53' 58"	138° 22' 11"	20010709 ～ 20010801	50㎡	県道改良 工事に伴 う事前調 査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
顔戸南木 ノ下	集落	縄文時代	竪穴住居址 2	土器破片				
		古墳時代		土師器甕 土師器蓋				

飯山市埋蔵文化財調査報告 第64集

顔戸南木ノ下遺跡Ⅲ

発行者 飯山市大字飯山1110-1
飯山市教育委員会
TEL 0269-62-3111

発行日 平成13年3月21日

編集者 飯山市教育委員会

印刷所 (有)足立印刷所

